

議事録

会議の名称	第2回別府市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和2年11月20日（金） 13:30～15:00
開催場所	別府市男女共同参画センター「あす・べっぷ」 研修室
出席者	委員：彌田委員、藤井委員、福谷委員、中山委員、平石委員、 大塚委員、上里委員、内田委員、手束委員（※西委員 欠席） 事務局：山内課長、岡崎補佐、城内事務員

≪会議の内容≫

■議題（1）令和元年度協働推進事業実績報告について

別府市協働のまちづくり推進条例第10条に基づき、協働のまちづくりの推進に関する施策の令和元年度実施状況を事務局から委員会へ報告。委員からの意見等は下記のとおり。

①啓発活動及び人材育成の推進

- ・新採用職員や協働推進員を対象に協働研修を実施しているが、各課に配置している協働推進員は若い世代の職員や女性職員を積極的に指名してはどうか。活力ある職員に「協働」を知ってもらい、若い世代の意見やアイデアを吸い上げることで、より協働のまちづくりが発展していくと思われる。

②市民と市の相互理解の推進

- ・協議会（地域運営組織）は、人を知り、共有していくことで、変革を好まない「地域の人の壁」を突き破り自治機能を高めよう取り組んでいる。1町では担い手がいなくても、地域が統合すれば人材は見つかるので、今後はいかに人を巻き込むかが地域の課題である。
- ・ひとまもり・まちまもり自治区形成事業の中で市が進める中規模多機能自治を住民に浸透させていくため、7協議会の特性を可視化してはどうか。例えば、モデル協議会の成功事例を別の協議会に展開していくなど、トップアップしていく手法も一つである。
- ・協議会の次期役員に若い人材を見つけておくべきである。役員が若ければ、活動的な若い世代の事業への参画を得ることができ、自治機能の維持・向上が図れる。また協議会構成団体の横のつながりを形成することで、次の活動にもつながる。

③体制づくりと支援策の推進

- ・ひとまもり・まちまもり自治区形成事業補助金を活用するにあたり、協議会内の話し合いで課題を認識して実施事業を決めているが、まだ何をするか探している協議会

も見受けられる。どの協議会も立ち上がったばかりのため、取り組みやすい防災などの事業に偏りがちだが、協議会組織が強化されるにつれて、何が地域課題かも浮き彫りになってくると思う。

・各地区には体育協会や青少年育成協議会などの組織があるが、人選が難しい地区もあり横のつながりも希薄である。協議会に構成団体として参画しているところも多く、協議会の中でこれら団体の整理・統合ができれば、さまざまな事業がより加速化するのではないかと。

④環境整備

・今年度、コロナ禍により市民活動支援補助金制度は募集を中止しているが、市民活動団体は補助金に頼らずに、地域の活性化に向け取組をどう広げていくかも考えなくてはならないと思う。

・市民活動団体の地域に向けた新しい取組を促進するには、補助金制度も含め、情報を開示することが必要である。

・令和元年度市民活動支援補助金の採択団体の中には、コロナ禍においても、屋外での活動へ転換するなど対策を講じながら、高齢者へ食事提供の活動を続けている団体がある。高齢者にとっては社会参加の場づくりが課題でもある中、毎月楽しみにしている住民が多く、見守りや安否確認にもなる取組で、主催側も活動そのものを楽しんでいる。このように、補助金がきっかけとなり、団体が自走して、新たな展開に結びつける形が望ましい。

⑤取組の評価や見直しの推進

・市とNPO等との協働施策においては、事業の質の精査や見直しが必要である。NPO等市民活動団体の活動を活性化する一方で、「協働の趣旨に適ったものか」「効果が上がっているか」「継続すべき事業か」など、協働事業の活動そのものを評価しながら取り組んでいかなくてはならない。

▶以上の委員の意見をまとめ、委員会としての評価結果へつなげていくことです承。

■議題（2）その他 令和2年度協働推進事業経過報告

自治振興課協働推進室が実施する協働研修など、令和2年度の協働推進事業の経過報告並びに今後の予定について説明。委員からの質疑等なし。

委員会終了。